



令和 6 年度

川越 都市景観 シンポジウム

令和6年12月21日(土)
13:30-16:00

ウェスタ川越
多目的ホール A・B

第17回(令和6年度)かわごえ都市景観表彰授与式
講評：川越市都市景観審議会 会長 倉田 直道

📍 パネルディスカッション

景観はエリアで整える
- 身近な景観が名所になるしくみ -

📍 パネリスト

馬場 崇

共和木材建築設計室 主宰
NPO法人川越蔵の会 副会長
川越商工会議所建設業部会 副部会長
東洋大学理工学部建築学科 非常勤講師

山田禎久

川越氷川神社 宮司
小江戸川越観光協会 副会長

西川 亮

立教大学観光学部准教授
川越市歴史的風致維持向上協議会委員
川越市総合計画審議会委員

主催 川越都市景観プロジェクト実行委員会
(川越商工会議所、(公社)小江戸川越観光協会、(公社)川越青年会議所、
NPO 法人川越蔵の会、(株)J:COM 埼玉・東日本、川越市)

問合せ先 川越市都市計画部都市景観課 都市景観担当 TEL:049 224 5961 (直通)

DESIGN ヤマダヤスヒロ (いとデザイン / コエトコ)



📍 パネルディスカッション

身近にあったいつもの景観が、一つの建築計画や小規模な景観整備をきっかけに魅力的な空間に生まれ変わり、多くの来訪者を惹きつける名所となる場合があります。歴史的景観の保全に取り組む本市では、これまでも1件の伝統的建造物の修理や、看板や入口のしつらえを整える小規模な景観整備が周辺に与える影響に着目し、周知・誘導を図ってきました。かわごえ都市景観表彰においても、良好な都市景観に寄与し、地域の個性及び特色の伸長に資すると認められるものであることを重視し、周辺への波及効果を与える核となる景観整備であることを求めています。エリアを意識した景観整備にも様々な手法があり、一番街や大正浪漫夢通りなどの商店街を中心に、個々の所有者による、長い時間をかけて整えた景観形成と、川越氷川神社界隈や喜多町弁天横丁などの、短期間で界隈の歴史を背景にトータルコーディネートを行った事例も見られます。今回の都市景観シンポジウムでは、効果が認められる双方の取り組みを取り上げ、エリアで景観を整えることの必要性と、名所となる条件などについて、3名のパネリストにご登壇いただき、パネルディスカッションによってひも解いていただくことで、本市の都市景観の創造と発展に寄与することを目指します。

📍 プロフィール



馬場 崇（ばば・たかし）

昭和48年(1973年)川越市生まれ。平成8年(1996年)千葉大学工学部建築学科卒業後、(有)宮脇檀建築研究室勤務。その後(有)山崎・榎本建築研究室勤務を経て、平成14年に家業の材木屋を継ぎながら共和木材建築設計室を設立。川越の歴史的建造物の復原や改修、建築物の新築や改修などの建築設計活動を行いながら、NPO法人川越蔵の会副会長として川越のまちづくり活動に取り組んでいる。



山田 禎久（やまだ・よしひさ）

昭和43年(1968年)川越市生まれ。先代宮司の逝去を受け、大学在学中に神職資格を取得し川越氷川神社祓宜に就任。平成4年(1992年)早稲田大学政治経済学部卒業。同年川越氷川神社宮司。現在、埼玉県神社庁理事、(公社)小江戸川越観光協会副会長、川越氷川祭の山車行事保存会参与として、川越の歴史文化の保存と発展に大きく貢献する。



西川 亮（にしかわ・りょう）

昭和60年(1985年)横浜市生まれ。平成20年(2008年)東京大学工学部都市工学科卒業、平成22年(2010年)同大学大学院都市工学専攻修士課程修了後、(公財)日本交通公社にて研究員として勤務。その後、平成30年(2018年)に東京大学大学院都市工学専攻博士課程修了、博士(工学)。同年4月より立教大学観光学部助教、令和3年(2021年)4月より准教授。専門は、観光まちづくり・観光政策。観光客を受け入れる地域側の視点を基盤に、観光客や観光事業者のあり方を研究。主な著作に「ポスト・オーバーツーリズム(共著)」や「観光地経営の視点と実践(共著)」など。

📍 プログラム

- 13:00 開場
- 13:30 開会・開会あいさつ(川越市長、川越商工会議所会頭)
- 13:40 かわごえ都市景観表彰授与式
講評(川越市都市景観審議会 会長 倉田 直道)

休憩

- 14:40 パネルディスカッション
景観はエリアで整えるー身近な景観が名所になるしくみー
- 15:55 閉会あいさつ(川越都市景観プロジェクト実行委員長)
- 16:00 閉会

